

## アンサンブル・リベラ・バロック プロフィール Profiles

### 新林 俊哉 (バロック・フルート、リコーダー)

バロック・フルートを中村忠氏、高橋理恵子氏に師事、リコーダーを江崎浩司、岩田泰氏に師事。各地の音楽祭、セミナーにてバルトルド・クイケン、有田正広、花岡和生各氏のレッスンを受ける。古楽アンサンブル・リベラ・バロック、モンテクレールアンサンブルを主宰、バロック室内楽を中心にカンタータ、コンチェルトなど多数の演奏活動を行っている。

### 吉野 聖子 (バロック・ヴァイオリン)

藤女子大学文学部国文学科卒業。中学・高校生のときに札幌音楽院バロックグループにてコレルリ、ヘンデル等の合奏曲に取り組む。2000年札幌古楽の夏音楽祭に参加。以来、寺神戸亮氏、若松夏美氏のレッスンを受講するなどバロック・ヴァイオリンも研鑽中。アルス室内合奏団所属。

### 布施 久美子 (ヴィオラ・ダ・ガンバ)

ヴィオラ・ダ・ガンバを福沢宏氏に師事。上村かおり、宇田川貞夫、平尾雅子、デイヴィッド・ハッチャー、ヴィーラント・クイケン各氏のレッスンを受講。バロック・コレギウム・サッポロ事務局長。日本ヴィオラ・ダ・ガンバ協会会員。札幌地方裁判所速記官。

使用楽器 [Marco Ternovec, 1995 (model N. Bertrand)]

### 近江 宏 (チェンバロ)

北海道教育大学札幌分校特設音楽課程卒業。ピアノを故島崎智子、沼田元一、故田中瑤子の各氏に、チェンバロを岩淵恵美子氏に、通奏低音を岡田龍之介、芝崎久美子の各氏、ベルギーのセミナーで、チェンバロをボブ・ファン・アスペレン、ロベール・コーネンの各氏の指導を受ける。現在、サッポロ・インターナショナル・アンサンブル指揮者、札幌音楽家協議会、北海道日本歌曲研究会会員。平成28年度札幌文化奨励賞受賞。

## 【こちらどうぞ】

### 土曜セミナー「三岸の蝶、来たのはどこから？」

三岸好太郎が晩年に描いた蝶のモチーフ。その意味について、日本の文学や美術における伝統とモダニズムを手がかりに探ります。

- 7月29日(土) 13:00~(約30分) 展示室3(40席) ●講師:中村聖司(当館副館長)
- 展覧会観覧料でお聞きいただけます。

### UNGA↑ オリジナル雑貨と食品を販売

「UNGA↑」(うながふらす)は、小樽の歴史と北前船の魅力を独自の視点でデザインしお届けする新ブランド。オリジナル雑貨と食品を販売します。

- 7月29日(土)、30日(日) 9:30~17:00 ●当館ロビー \*ロビーのみの入場は無料
- 出店:株式会社フレンセル

85<sup>th</sup>

美術館コンサート

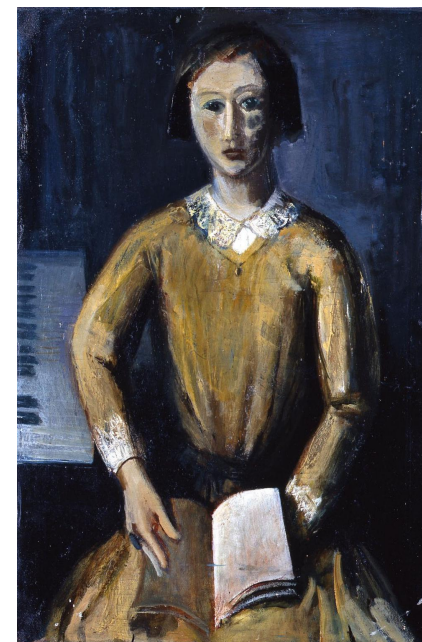
## ランチの前に、バロックを

出演

アンサンブル・リベラ・バロック

開演

2017年7月29日(土) 11:00



mima 北海道立三岸好太郎美術館  
MIGISHI KOTARO MUSEUM OF ART, HOKKAIDO

## プログラム Program

1. A. コレルリ  
「トリオ・ソナタ 作品 2-12 チャコーナ」
2. A. ファルコニエーリ  
「フォリア」
3. G. Ph. テレマン  
「トリオ・ソナタ イ短調 TWV42:a1」
4. J. N. P. ロワイエ  
「スキタイ人の行進」(チェンバロソロ)
5. C. デュパール  
「組曲第3番」より
6. L. A. ドルネル  
「トリオ・ソナタ Op. 3-3 ロ短調」

## プログラム・ノート Program Notes

### A. コレルリ(1653-1731)「トリオ・ソナタ 作品 2-12 チャコーナ」

イタリアのバロック音楽と言えば、ヴィヴァルディが有名ですが、コレルリは彼の 25 年前に生まれています。クリスマス協奏曲でよく知られていますが、優れたヴァイオリン奏者で、2つのヴァイオリンのためのトリオ・ソナタも多数残しており、このチャコーナは作品 2 の最後の 12 番目の曲です。

チャコーナはフランス語ではシャコンヌですが、3 拍子の速めの舞曲です。短い曲ですが掛け合いも多く、演奏していて爽快な気分になれます。(新林)

### A. ファルコニエーリ(1586-1656)「フォリア」

器楽曲はルネッサンスからバロックにかけてイタリアで発展しましたが、ファルコニエーリも初期イタリアで活躍した作曲家の一人です。あまり多くの資料や作品は残されていませんが、50 曲あまりの器楽曲集が有名で、様々な楽器構成で演奏されるように書かれています。

このフォリアもその曲集の 1 曲です。フォリアという音楽形式はイベリア半島で生まれたと言われる舞曲で、3 拍子の緩やかな音楽です。(新林)

## プログラム・ノート Program Notes

### G.Ph. テレマン(1681-1767)「トリオ・ソナタ イ短調 TWV42:a1」

Affettuoso 4/4 - Vivace 6/4 - Grave 3/2 - Minuet 3/4

アッフエトゥオーソ(愛情をこめて)、ヴィヴァーチェ(快活に)、グラヴェ(重々しく)、メヌエット

テレマンは後期バロックのドイツの作曲家で、バッハと同時代に活躍しましたが、当時はバッハよりも人気があったようです。自分でも様々な楽器を演奏し、リコーダーの作品も数多く残っていて、この楽器の為の貴重なレパートリーとなっています。ちなみにバッハはフルートの曲はいくつかありますが、リコーダーに至っては、カンタータに少し使ったのみで、ソナタ形式での曲は 1 曲も残しておりません。(新林)

### J.N.P. ロワイエ(1705-55)「スキタイ人の行進」(チェンバロソロ)

ロワイエはフランスの作曲家、チェンバロ奏者で、彼の作品の中でも弾かれる機会の多い作品。

スキタイ人はユーラシア大陸の騎馬民族。 Rond 形式(A-B-A-C...)という作りになっています。(近江)

### C. デュパール(1667-1740)「組曲第3番」より

Allemande 4/4 - Courante 3/2 - Gavotte 2/2 - Minuet 3/4

アルマンド、クーラン、ガヴオット、メヌエット

デュパールはフランス生まれの作曲家でヴァイオリニスト。残されている作品は多くありませんが、その中ではリコーダーと通奏低音のための6つの組曲が有名で 1701 年に出版されました。当時リコーダーと言えば、アルトリコーダー(F 管)が一般的でしたが、この曲で使われているリコーダーはアルトリコーダーよりも3度低い音が出るヴォイス・フルートというちょっと特殊なリコーダーです。(新林)

### L.A. ドルネル(1680-1756)「トリオ・ソナタ Op.3-3 ロ短調」

Prelude Lentment 3/2 - Fugue Gai 2/2 - Lentment et doux 3/4 - Chaconne gracieuse 2/2

プレリュード・ラントマン(遅めの前奏曲)、フーガ・ゲイ(快活なフーガ)、ラントマン・エドゥ(遅く、優しく)、シャコンヌ・グラシェーズ(優雅なシャコンヌ)。

ドルネルはバッハと同時代のフランスの鍵盤奏者・作曲家です。あまり多くの作品は残っていませんが、作品はフランスらしい優雅さにちょっと変わったアクセントがちりばめられていて、お洒落な曲が多いのですが演奏者の好みも好き嫌いが極端に別れるのが特徴です。4 楽章のシャコンヌも珍しい 2 拍子で書かれています。(新林)